

令和元・2年度港区教育委員会研究奨励校
令和2年度文部科学省(国立教育政策研究所)実践研究協力校

研究主題

主体的に考え、議論する道德科の実現

～中心発問の工夫を通して～



令和2年10月29日(木)

港区立小中一貫教育校
お台場学園港陽小・中学校

〒135-0091 東京都港区台場 1-1-5

TEL 03-5500-2575 FAX 03-5500-2574

HP <http://odaiba-ej.minato-tky.ed.jp/>

あいさつ

港区教育委員会教育長 浦田 幹男

総務省が策定した「地域における多文化共生推進プラン改訂」(令和2年9月)では、わが国が目指すべき多文化共生社会において、多様な価値観をもつ人々と相互に尊重し合いながら生きる姿勢を身に付けていくことや、物事を多面的・多角的に推察する力を育成していくことがより一層重要であると示されています。

このような課題に対応していくためには、社会を構成する人としての生き方や社会の在り方について、時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが肝要であり、こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育は、大きな役割を果たす必要があります。

港区立小中一貫教育校お台場学園では、令和元年度・令和2年度の2年間にわたり、主題を「主体的に考え、議論する道徳科の実現～中心発問の工夫を通して～」と設定し、研究に取り組んできました。本研究では、道徳科と学校行事や他教科との関連を考え、1年生から9年生まですべての学年で道徳の年間指導計画を見直すことや、児童・生徒が主体的に道徳的価値に迫ることができるような中心発問の工夫等に取り組んできました。このような取組により、考え、議論する道徳科の授業が数多く実践され、児童・生徒の学ぶ意欲の向上や先生方の道徳科の指導力の向上を図ることができたのは、大きな成果であると考えています。

各学校や幼稚園におかれましても、本校の実践を参考にいただき、子どもたちの道徳性の育成に努めていただきたいと思います。

結びに、研究を推進されました熊木崇校長をはじめ、教職員の皆様に敬意を表するとともに、研究に際し御指導・御支援いただきました講師の先生方、ならびに御協力を賜りました保護者・地域の皆様に深く感謝申し上げます。

研究の経緯～あいさつに代えて～

校長 熊木 崇

「特別の教科 道徳」(以下、「道徳科」という。)が全面実施となり、小学校は3年目、中学校は2年目を迎える。そもそも、道徳科に改訂された経緯には「道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること」「他教科に比べて軽んじられていること」などの課題が指摘されている。まずは、これらの課題の解決を図らない限り、道徳科の授業を充実させることはできない。これが本学園の研究のスタートである。

道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」である。道徳科の指導には、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を主体的に育てる時間である。」という特質がある。教師は、確かな指導観(価値観、児童観、教材観)をもち、道徳科の特質を生かした学習指導過程や指導方法の工夫が求められている。

そこで、本学園では、中心発問に注目して研究を進めてきた。道徳科の目標に迫るためには、道徳科の特質を踏まえ、子どもたち一人ひとりが「自分とのかかわりで道徳的価値を理解する」「物事を多面的・多角的に考える」「多様な感じ方や考え方が引き出される」等、授業のねらいに深くかかわる中心発問の工夫が重要であると考えたからである。教師側から見ると、「With コロナ」時代が到来し、多忙さが増している中、確かな指導観を基に、中心発問に絞って短時間で教材研究が進められるメリットもあると考えている。(3ページ「どうとく30分クッキング」参照)

また、中心発問における思考や話し合いを深めるためには、いかに時間を確保するかが鍵となる。そこで「ほぼ・いきなり・中心発問(HIC)」(授業開始20分程度で中心発問に入る)という工夫を考え、授業実践を重ねてきた。これらの研究の全体像を道徳の木として表現している。

本研究を通して、道徳科を楽しみにする子ども、教師が一人でも増えることを願っている。

本学園の児童・生徒の実態

令和元年度に実施した道徳に関する児童・生徒アンケートの結果から、以下の項目に着目した。

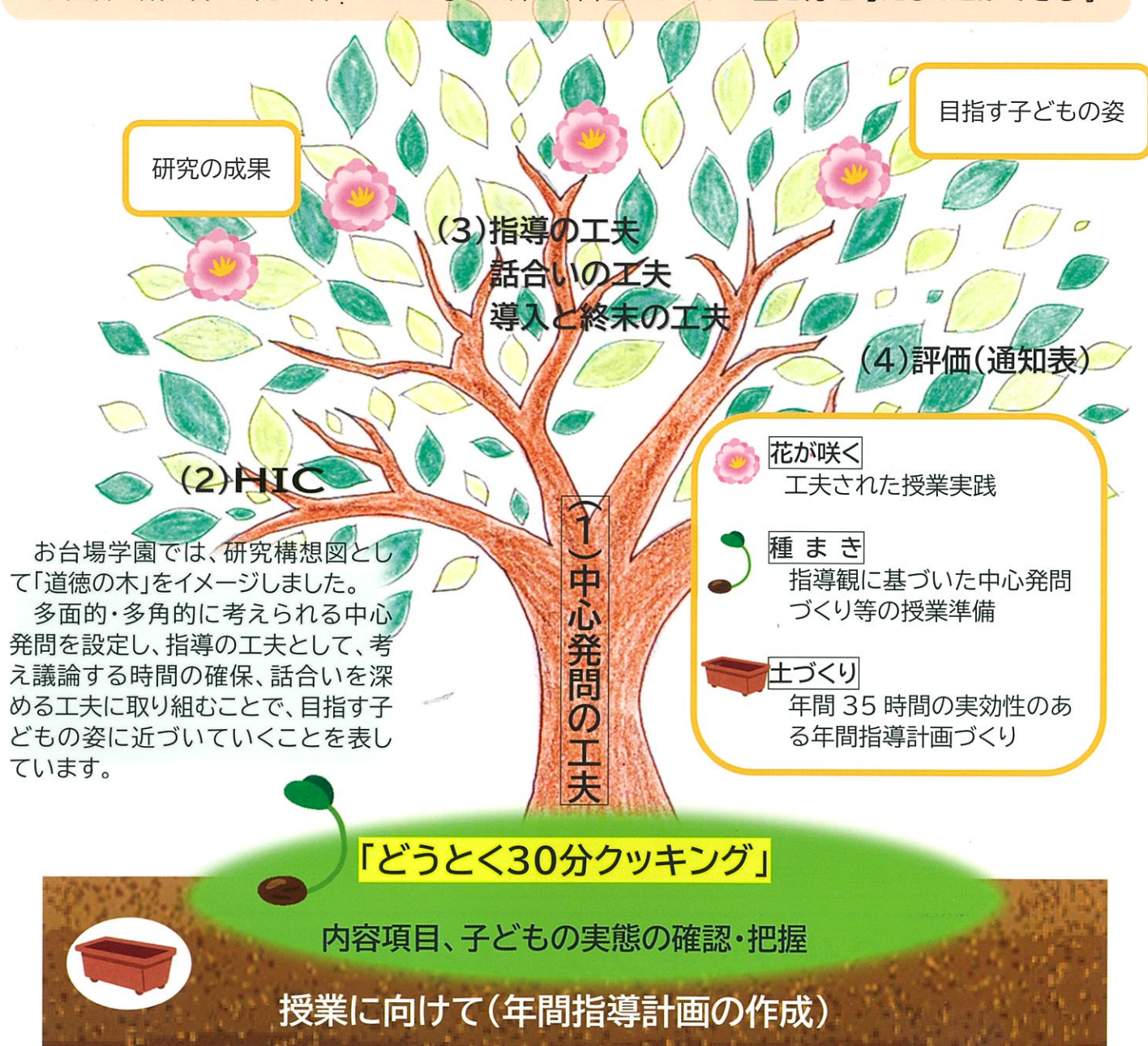
- ・学級や友達のために役に立ちたいと思いますか。…あまり思わない、思わない39%→**減ってほしい**
- ・自分の考えと友達の考えを比べて、「その考えはわかる」「そんな考えもあったんだ」などと思うことがありますか。…思う・とてもそう思う71%→**増えてほしい**

これらの実態から、「お台場学園の目指す子どもの姿」を1ページのように設定することで、児童・生徒が道徳的価値をより理解し、自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深められるだろうと考え、本研究を進めてきた。

〔研究構想図・お台場学園「道徳の木」〕

お台場学園の目指す子どもの姿

- ◆身の回りの物事に対して課題意識をもち、自己を見つめることができる子
- ◆他者と話し合い、認め合いながら考えを深め、自己のよりよい生き方を考えることができる子



【道徳3ステップ】

目次(道徳の木)

1 土づくり

授業に向けて(年間指導計画の作成)

… 2ページ

2 種まき

どうとく30分クッキング

… 3ページ

3 花が咲く

(1)中心発問の工夫

… 4ページ

(2)HIC(ほぼ・いきなり・中心発問)

… 5ページ

(3)指導の工夫

… 6、7ページ

(4)評価の方法(通知表の例)

… 8ページ

授業に向けて 年間指導計画の作成

年間35時間の道徳科の授業において、すべての内容項目を計画的に実施することが可能になります。

中学校ではローテーション授業を行うことで、学年の教員全員で道徳授業に取り組むことができます。

また、別葉を作成することで、学校の教育活動全体を通じて道徳教育が計画的に実施できます。

<中学校版 年間指導計画>

6	3	1	築瀬	(4)希望と勇気、克己と強い意志 「銀メダルから得たもの」《体》	○導入が不足していた。	7	14	築瀬	(2)節度、節制 「ある朝のできごと」《技》	11月の学活と入れ替え	
	10	2	菅	(12)社会参画、公共の精神 「No Charity, but a Chance」《体、英》	○社会参画の意味も実践につなげることができた。	14	15	菅	(17)我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 「昔と今を結ぶ糸」《社》	国は本邦の歴史文化の発展に寄与している。	
	17	3	岸田	(6)思いやり、感謝 「進むすべ」	○実践力につながれた。	21	16	岸田	(22)よりよく生きる喜び 「世界を動かした美」	校内研修のため、3学期に振替。	
	26	4	築瀬	(14)家族愛、家庭生活の充実 「一冊のノート」	○中心発問までが急すぎた。	29	17	築瀬	(19)生命の尊さ 「臓器ドナー」		
7	1	5	菅	(1)自主、自律、自由と責任 「町内会デビュー」	○自分の意図で行動しようとする気持ちが育まれた。	4	18	築瀬	(11)公正、公平、社会主義 「卒業文集最後の二行」《国》		
	8	×		テスト期間中のため		11	19	菅	(18)国際理解、国際貢献 「命のトラジャットビザ」		
	15	6	岸田	(9)相互理解、寛容 「思いを伝えることの難しさ」《数》	○考えさせ、発言させられた。	25	20	岸田	(10)道徳精神、公徳心 「二通の手紙」		
	22	7	菅	(8)友情、信頼 「進んだら、健闘」	○信頼について具体的に考える機会となった。	2	21	菅	(17)我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 「父は能楽師」《音》		
8	26	8	築瀬	(7)礼儀 「出迎え三歩、見送り七歩」	○RPも入れて礼儀について考えさせられた。	9	22	岸田	(11)公正、公平、社会主義 「命の大切さ」		
9回目は社会の授業と交換の実実施						12	16	23	築瀬	(12)社会参画、公共の精神 「自分・相手・周りの人」	
						*	23	24	菅	(20)自然愛護 「川沿いのある暮らし」《社》	

9回目は社会の授業と交換の上実施

<小学校版 年間指導計画>

月	番号	主題名	内容項目	教材名	1組	手ごたえ
4	1	生命の連続性	生命の尊さ①	自分の昔のいのちのバトン	5/13	予定
4	3	互いを尊重する友情	友情、信頼①	章太と幸治 — ニつのえがお —	5/20	予定
4	学研	世界の人がつながって	国際理解、国際観①	ペルーは泣いている	6/26	予定
5	21	相手の立場に立った言動	親切、思いやり②	ちゃんとやれば、健太	6/26	9
5	5	法やきまりの意義	規則の尊重①	法やきまりはだれのもの	5/27	予定
5	30	強い意志	希望と勇気、努力と強い意志②	ヘレンとともに — アニー・サリバン —	7/13	9
6	6	節度を守り節制に心がける	節度、節制①	流行おくれ	7/7	9
6	8	自分のよさを生かして	個性の伸張①	グラウンドにひびく声	6/12	△
6	2	うそをついたりごまかしをしたりしない	親切、思いやり①	バスと赤ちゃん	7/15	9
6	10	探究する心	真理の探究①	はじめての実験 — 山中 伸弥 —	7/20	9
7	11	自然環境を大切に	自然愛護①	一ふみ十年	7/27	△
7	12	感謝の心	感謝①	小さかったお返し	9/1	9

計画を学年内で共有し、実施日や自己評価などを記入することで、授業者の計画・実施・振り返りを継続して行うことができ、授業改善につなげることができます。

どうとく30分クッキングに入る前に…

【内容項目の確認】(授業者の価値観)

指導する内容項目について、「学習指導要領 特別の教科道徳編」を用いて、(1)内容項目の概要、(2)指導の要点を確認します。指導する内容項目で登場する言葉の意味や定義づけ、内容の理解、発達段階に応じた指導のポイントなどを読み取り、授業の方向性を確認していきます。(3ページ①、②)

明確な指導観をもつ！

教材を読む

【児童・生徒の実態把握】(児童・生徒観)

児童・生徒の実態を的確に把握し、授業を組み立てていきます。

児童・生徒の姿から読み取れる、日常生活での課題、道徳の授業で考えていきたい内容など、目の前の子どもたちを思い浮かべながら中心発問を考えていく必要があります。また、他教科との関連や、前学年までに学習してきたことなども把握しておくことさらに効果的です。(3ページ③)

どうとく30分クッキング

～指導観を大切にした中心発問をつくらう～

お台場学園では、効率よく道徳の授業準備が行えるよう、オリジナルの授業計画の立て方を考案しました。それが「どうとく30分クッキング」です。



◆◆◆材料◆◆◆

1 学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	… 1 冊	4 児童・生徒の実態	… 2ページ参照
2 資料	… 必要なだけ	5 教師の情熱	… あるだけ
3 内容項目	… 2ページ参照	6 道徳を楽しみに 待つ子どもたち	… たくさん

① 内容項目について理解しましょう。児童・生徒の実態を思い浮かべましょう。

学習指導要領解説特別の教科 道徳編で内容項目について理解します。

10分

資料を読む



② 内容項目に照らし合わせたねらいを考えましょう。

5分



例. 1年生「はしの上のおおかみ」

内容項目:B 親切、思いやり 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。

ねらい:くまの優しさに触れたおおかみの心の変化について考えることを通して、身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にしようとする心情を養う。

③ 子どもと共にもっとも考えたいことを明確にしましょう。

5分

(例)自分と仲のよい友達に対しては、教師に言われずとも優しくすることができる児童が多いが、同じ教室にいてもあまり関わりがない友達に対して、親切に接することができない児童も多い。クラスや学年など身近にいる人に広く目を向けて親切にできるようにしたい。

⇒「身近な人への視野が広がるような中心発問にしよう。」



④ 本時のねらいに最も迫る場面から中心発問を考えましょう。

5分



「くまのうしろすがたをいつまでも見ているおおかみは、どんなことを考えていたのでしょうか。」

⇒おおかみの考え方が大きく変わり、視野が広がる場面なので、この場面を中心発問にした。

⑤ 中心発問が完成したら、先生方のスパイス(指導の工夫)を加えて

5分

どうとく30分クッキングの終了です。



(1)中心発問の工夫

お台場学園では、子どもたちの考える観点を明確にするために、「簡潔でわかりやすい中心発問」となるよう工夫してきました。さらに、中心発問を「**自分事として考えさせる発問**」、「**話し合う必然性がある発問**」、「**多様な考え方をさせる発問**」など目的ごとに分類し、指導する内容や発達段階に応じて、適切な中心発問を考えていくようにしています。

発問例 ① 小学校2年 自分のよさについてかんがえよう 「とべないペンギンくん」 〈個性の伸長〉

自分事として考えさせる発問

『大きな声で、「ぼくね、とべないけど泳げるよ」と言ったペンギンくんは、**どんなことに気づいたのでしょうか。**』

- 〔反 応〕・自分にもできることがあってうれしい。
・誰にでも得意なことと、できないことがあるんだ。
・得意なことは人によってちがうんだ。

- 〔問い返し〕・どうして自分にもと思ったのだと思いますか？
・人によってちがうとは、どういうことですか？

〔成 果〕 登場人物の心情理解にとどまらず、自分と照らし合わせて考えられていた。

問題意識をもたせる問い返し

発問例 ② 小学校5年 バランスのとれた生活 「流行おくれ」 〈節度、節制〉

話し合う必然性がある発問

『しいんと散らかった部屋を見て、まゆみは**どんなことを考えたのでしょうか。**』

- 〔反 応〕・物を大切にしていなかった。
・我慢ができていなかった。
・お母さんや弟に謝ろう。
〔問い返し〕・なんで我慢が必要だと考えたのでしょうか？
・もう新しいものは絶対買わないということですか？

〔成 果〕 事前に子どもの実態を的確に把握したことで、話し合いたくなるような発問となり、活発に意見が出て、充実した話し合いとなった。

問題意識をもたせる問い返し

発問例 ③ 中学校2年 支えあう生命 「最後のパートナー」 〈生命の尊さ〉

多様な考え方をさせる発問

『もう引退犬にはかわりたくないと思っていた西田さんが、ボランティアを続けていこうと思ったのは**なぜでしょう。**』

- 〔反 応〕・辛いだけじゃなくて、人の役に立っていることに気づいたから。(やりがいい)
・最期までジルの命を輝かせたいと思ったから。(生命の有限性)
・犬や多くの人との出会いがあるから。(生命の偶然性)
・ジルは今でも多くの人々の心の中で生き続けているから。(生命の連続性)

〔成 果〕 生命の尊さについて、様々な視点で考えさせることができた。

多様性の例



Hobo

Ikinari

Chuushin-hatsumon

(2)HIC【ほぼ・いきなり・中心発問】

HIC(ほぼ・いきなり・中心発問)とは...

授業の半分以上(開始20分程度)で

中心発問に入る。

児童・生徒に考えさせたいポイントを明確にして、十分な議論の時間を確保することができ、考えを深め、広げることができる。



～授業時間配分の例～ (中学校:50分授業)

授業開始	5分	10分	15分	20分	25分	30分	35分	40分	45分	終了
導入	資料 提示	展開(前段) 教材理解、中心発問にせ まるための補助発問			中心発問について十分に議論 (考えを深める、広げる)				(後段) 自己を 見つめる	終末

遅くとも、このあたりで
中心発問に入る。

令和2年度 研究授業では、

6/ 8(中学校):20分

6/26(中学校):17分

7/16(小学校):16分

で中心発問に
入りました。

中心発問につながる補助発問を1問
程度に精査するようになった。

HIC に取り
組んだ教員の感想

児童・生徒の発言が増え、友
達の意見を聞く時間を十分
にとれるようになった。

教材の世界に入り込みやすくするた
め、教材提示を工夫するようになっ
た。



自己を見つめる時間や終末
の時間もしっかり確保でき
るようになった。

(3)指導の工夫

①児童・生徒が主体的に考えるための工夫

★児童・生徒に自分事として考えさせる工夫

(実践例:中学校 家族愛、家庭生活の充実)
家族の存在についてアンケートをとった。

大切、心安らぐ存在、迎えてくれる存在、
養ってくれる存在、支えてくれる存在、い
なくならないでほしい存在 など

実態を分析すると、～してくれる存在と考
えている生徒が多かった。

【発問】

「家族はいつまでも
～してくれるのでしょうか。」

(成果や効果)

授業の最初から最後まで、一貫した問いをも
つことで自分の両親や祖父母へ思いをふくら
ませ、自分事として考え、ねらいに迫ることが
できた。

★効果的な範読の工夫

(あらすじをとらえやすくするための範読の例)

これまでの祖母のことを考
え、僕はそれ以上何も言えな
くなった。
そのあとも、祖母は家の掃除
や片付けに動き回った。そして、
ものがなくなる回数はずっと
頻繁になった。
それから一週間あまり過ぎた
ある日、探し物をしていて僕は、
引き出しの中から一冊の手あか
に汚れたノートを見つけた。
(あすを生きる3年「一冊のノート」より)

中心発問に関わる「一冊のノート」を見つ
ける前と後で場面を区切って範読をする。

(成果や効果)

長文の場合など、あらすじ等を確認する時
間を短縮できる。

中心発問の場面に焦点を当てることで、主
人公に共感し、思いを考えやすい。

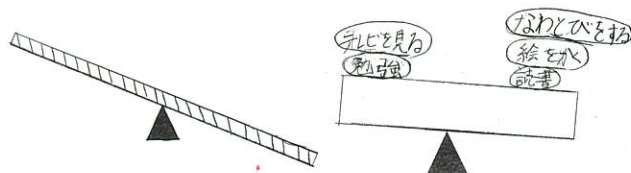
★考えを表現しやすくする工夫

(実践例:小学校 節度、節制)

思考を図や絵で表すことで、文章を書くこ
とが苦手な児童がより自分事として考えられ
るようになる。

【発問】

「自分の生活のバランスはどうなっているで
しょう。図や言葉で表してみましょう。」



(成果や効果)

全員が図や言葉で自分の生活について振り
返ることができた。なぜそのような図にしたの
か等、理由を考える手段としても有効であっ
た。

★深める・広げる問い返しの工夫

(深める・広げる問い返しの例)

① S「△△な気持ちだと思います。」

T「今のSさんの発言について、S1さんは
どう思いますか？」

(成果や効果)

児童・生徒同士の発言をつなげると、発言に
抵抗がある児童・生徒も発言しやすい。

② S「〇〇だと思います。」

T「どうして〇〇だと思ったのですか？」
「〇〇についてもう少し詳しく聞かせて
ください。」

(成果や効果)

発言の「核」に迫ることで、発言者自身も考え
を深めていくことができる。

深める・広げる問い返しを通して、個人や学
級全体の考えを深め、より一層ねらいに迫
ることができる。

②児童・生徒が対話的な活動をするための工夫

★思考ツール「PMIシート」の活用

(実践例:小学校 正直、誠実) プラス・マイナス・インタレスト

「誰かに言う・言わない」それぞれの立場に立
った時の心情を多面的・多角的に考えた。



【発問】

「友達の悪い行いを知った時、どうすべきだと思いますか。」

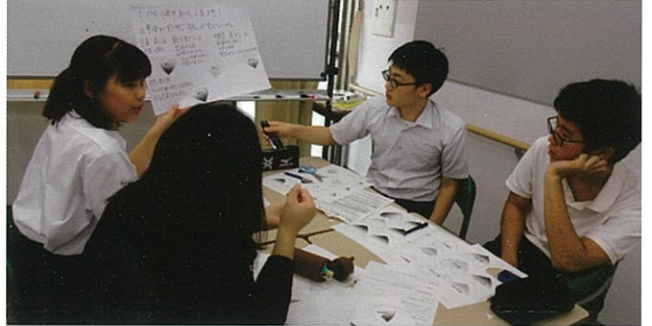
(成果や効果)

それぞれの立場での考えや思いを共有することで、人間は様々な葛藤の中で生きていることや、自分で判断して生きていくことの大切さに触れることができた。

★児童・生徒同士のキャッチボールの促進

(実践例:中学校 友情、信頼)

「これからもずっと付き合っていきたい友達とは」どんな友達なのだろうか。初めに自分の考えをワークシートに記入し、それをもとに、グループで話し合った。



(成果や効果)

「これってどういうこと？」「私は～と思うけど、みんなは？」「よくわかるよ。」など、友達の考えに問い返ししながら、自分の考えを深めることができた。また、自分にはない考えに出会うこともでき、考えに広がりが見られた。

③家庭や地域と連携するための工夫

★「全校道徳の日」の設定

7月全校道徳「思いやり、感謝」



家庭内でも共通の話題で会話することができるよう、年間 5 回、重点内容項目を一つずつ取り上げ、全校で道徳授業を行う日を設定した。

(成果や効果)

全校道徳で扱った内容項目や道徳授業について家庭でも話すきっかけとなっている。また、保護者も本校の道徳教育に興味や関心をさらにもつようになった。

お台場学園道徳だより「全校道徳」特集号

保護者の皆様へ	
お台場学園 道徳だより	
7月の全校道徳 7月15日(水)	
内容項目	小学校 親切、思いやり 中学校 思いやり、感謝

6月～7月は「ふれあい月間」です。人との関わりの温かさや大切さを実感できるよう「言葉」や「あいさつ」を中心に学級で指導しました。今月からは全校が登校となり、人とのふれあいも広がっています。

	1・2年	3・4年	5・6年	7・8・9年
今日われわれに	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	相手のことを思いやり、遠くで親しくすること。	誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。	思いやりの心をもって、人に対する責任と義務の支えとなる生活の善いよりよい生活への善い自分の責であることに感謝し、進んでそれに従い、人間愛精神を深めること。

[illegible]

使用教材	1年	3年	5年	7年
	空のクレヨン	観覧の旅	バスと赤ちゃん	思いやりの日々
	2年	4年	6年	8年
	あおいばりばり三年生	風のを渡るコヨメエクスカーション	導いずの少女	夜のくぐりもの
【教育活動との関連】				

【教育活動との関連】

☆ふれあい月間☆

通常登校が始まりました。限の学級の友達とのふれあいも増えます。頑張っている友達にどんな言葉をかけたらいいかな。困っている友達にはどう接しようかな。身近な人間関係を通して学べることがたくさんあります。

相手の立場に立って考えられる子に育てばいいものです。

☆離任された先生方とのお別れ会☆
お世話になった先生方とお別れの会を開きました。これまでのご指導に感謝の気持ちを手紙や態度で表しました。先生方もとても喜んでくださいました。

保護者の皆様へ

今年度は全校道徳を7・9・11・1・3月に行います。教科書を持ち帰りますのでご家庭でもどんな学習をしたのか話題にしてくださいと思います。

1学期は保護者の皆様に参観していただくことはできませんが、2学期以降は公開していく予定です。本校の道徳教育に興味をもって参観していただきたいと思います。



(4) 評価の方法 ～ 本校通知表の例 ～

本校では、**児童・生徒のワークシート等の記述に着目した個人内評価**の充実を図ってきました。それにより、自信をもって通知表の記述ができるようになりました。

道徳科における評価のポイント(参考：小学校・中学校学習指導要領解説)

- 数値などによって不用意に評価してはならない。
- 他の児童・生徒との比較による評価ではない。
- 児童・生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行う。

《児童・生徒のワークシートの記述内容》

●「一ふみ十年」という言葉から、あなたは自然についてどのようなことを考えますか。

ふみはなんの問題もないだろうと思ってるけど、自然を弱らせるって、自分のために自然を弱らせるって、自然を大切にしたいと思ってる。

(3) 自ら考え、行動することの素晴らしさについて考えてみよう。

〇私は子にしか自主的に家の手伝いをやっていないので、これから家族のためにも、自分のためにも自主的に家事をしたい！

〇これは自分のために頑張りたいけれど、先生や親に言わなくても自主的に勉強する！今頑張らなければならぬ後で後悔しないように頑張りたいから。

【評価文例：小学校】

「一ふみ十年」の学習では、無意識に高山植物を踏みつけていた主人公と同じ経験が自分にもあることを自覚した上で、一踏みでたくさんの自然を弱らせることに気付き、これまでの自分を反省し、「自然を大切にしたい」と、感想をまとめました。

- 1行目：教材について
- 2行目～：学習活動について
- 4行目～：児童の記述内容や姿について

【評価文例：中学校】

自主、自律、自由と責任について考える授業で、「町内会デビュー」という教材をとおして、「家族のために自主的に家事をしたり、自分のために勉強したりしたい」という感想を書くなど、自分の行動を自主的に決め、行動しようとする意欲が見られました。

- 1行目：内容項目について
- 2行目～：教材について
- 3行目～：生徒の記述内容や姿について

* 一方で、発言が多くない児童・生徒や、文章表現の苦手な児童・生徒もいる。今後、さらなる研究が必要である。

研究の成果と課題

【○:成果 と ▲:課題】

道徳
3ステップ

①「年間指導計画」について

- 全体計画、年間指導計画、全校道徳などを駆使した道徳教育を推進できた。また、年間35時間全ての内容項目について考え、議論する道徳科の授業が実践できた。
- 中学校では、道徳の時間割を全学年で固定し、年間指導計画の中に担当教員を割り振るローテーション授業を実施したことで、意図的・計画的な授業実践につながった。
- ▲一人一台のタブレット端末導入にあたり、ICTを効果的に活用した授業を計画していく。

②「どうとく30分クッキング」「中心発問の工夫」「問い返し」について

- 「どうとく30分クッキング」に取り組み、教材研究の仕方(明確な指導観をもつ、効果的な中心発問の作り方など)が明らかになったことで、児童・生徒の実態を考慮した授業や教員が意図を明確にもった授業が実践できるようになった。
- 「HIC(ほぼ・いきなり・中心発問)」を意識し、授業開始20分までに中心発問に入れるように授業展開を工夫したことで、児童・生徒の考えを深めたり、広げたりする時間を十分に確保することができた。また、自分の生活を振り返ったり道徳的価値を一般化したりする時間の確保にもつながった。
- 児童・生徒に考えをもたせたり、深めさせたりする効果的な指導の工夫(例:事前アンケートの活用、思考を図や絵で表す工夫等)を実践できるようになった。
- 中心発問の際に、「問い返し」をあらかじめ用意することで、児童・生徒の思考を深めたり、広げたりすることにつながった。
- ▲導入や展開において児童・生徒が自分事として問題意識をもって考えを深めていけるような工夫がさらに必要である。
- ▲授業の進め方がワンパターンにならないよう、多様な授業展開を今後も追究していく。

③「評価」について

- 授業における児童・生徒の姿を想像しながら授業計画をすることで、児童・生徒の学びの姿を見取ることができるようになった。また、個人内評価を意識した評価ができるようになった。
- ▲記述や発言が苦手な児童・生徒の評価の在り方について今後も追究していく。

【児童・生徒の変容(アンケート調査からの見取り)】

- 【学級や友達のために役に立ちたいと思いますか。】の問いに、「あまり思わない」、「思わない」と答えた児童・生徒の割合
⇒39%から29%に減少した。
- 【自分の考えと友達のを比べて、「その考えはわかる」「そんな考えもあったんだ」などと思うことがありますか。】の問いに、「思う」、「とてもそう思う」と答えた児童・生徒の割合
⇒71%から83%に増加した。
- 【道徳の時間は楽しみですか。】の問いに、「思う」、「とてもそう思う」と答えた児童・生徒の割合
⇒62%から71%に増加した。